金華山妙光寺池邊碑文之縮圖

不注帰去の国華の野を思ふ里の案
内者の須らく芭蕉葉の雲を生ずるを
見るに孤峰の中に物ありて人に似
たり人皆仏新に雪中の四士なる事日蓮
法子にけるを 江
州日の妙光禅尼なる貧女の信を
名月や池を巡りて物も言ふ一章を

刻ミてやしぬみを建え周く諏訪国好
諸君子の高吟をも集て一集を編し是を
ほわす我がぬに一言す前を平中を乎
ようふいもあれたすがくむり月見塚集と
題しける事に於し機伸くまもはせ
露草庵呂伸又ゐの拙をもかならず
みまかりに結の寿

弘化巳の春

月見塚集

祖翁神忌　百五十回追福

脇起之俳諧

名月や池をめくりて夜もすから　翁

露おく萩のさびしき風　汀砂

さし来一間足らす揃へこそす　兜什

堺屋乃志婦の好け兼るく　雪斗

晴るゝ山にちる花遠くこそ鳴り　新く

間屋場建て通ふを住まる　山南

鶏を呼ひて犬を追かくし　可門

針智めぐる髪も結ふなれ　浅量

叢に鐘を打くる筆以て経　其風

志からて自行勝乃活　既芸

何處一やう油乃通ひ縁色廻　呰居

子より肥立年寄りし水疱瘡　砂

籠の鳥放ちは遊の消ゆる肉　什

清茶ひと口も貼まぬ棚経　斗

持ふるす扇子に起きを書きくし　彩

舟子の手先乃軽くとまむ　南

村口に鬼宿も吉の中みなり　門

名さへ何色八鮭卵蔵造　量

下京へ往てもとうも善き
所柳ヨ清ル箱折ウ吉
尼外ヲ住テ考モ間ヲウ
法まあハ清ル鎖猫乃巻
山ヲくる地法のえお引ち
出一ちをれ法むしく
辞まめる土親のめ酒かかまを
山まぬ思ひの結る屋乃秋

風
芸
居
砂
付
井
新
車

矣ハをる乃をるふ尼ま乃
こ事の結乃時ま以る
掾屋乃姫さる月の界ヲ除
山乃ヲ宝ウハ志を取角カ口
掛界ヲ稲も井稲も戦き打
雲ひさる話磯石砕ま
事時のるうけまを者の鮮者
兄身ま有卦ヲおもむく

門
量
風
芸
居
砂
付
井

水鹿さんしゅく　新のうめ　雪

雲良の雑うた　高浜　虚子　牧年

各九拝

諸邦四季混雑

小池に雪もたまる山椿　山椿　梅室

波立て雪に紅上さんや菜の花　九起

雪解や舟人さうを撫擦へ　盛年

とう塔ゝさまを八百峰らうの郎　杜鵑子

大雪の井や堀井の子供　梅通

雪ふと野反原　赤山　雨翠

七くさや拾ひきれと一休うく　岳風

ゆふ晴や鶯うぐひす庭を掃き庭　柳絲

大和

毎日や桜子のうたる門や雪　樗亭

年の竹を月を岩に流るる車　右鏡

河内

雪の有る替よつる替雪を船　淡叟

摂津

一年掃石は折れる筆尺の糸　昇龍

蒙うる寄る根や尾ふる年　其山

秋ふるや湖を流るる風船子　白路

日のうるる乃時雨や秋ハ船もうる　林曹

銀杏うる拾ふ寄るつる野口の野　素屋

乃り拾ふ中ふハ岩行すい田ふ原　祇白

新ちくも休ふ埼ふ多きうる野ふ　松濤

伊賀

毎つけて毎ふの中ふや后ふ月　鷺秋

年垣ふ大乃蔵ふや毎の年　養風

伊勢

立明ゝ時ゝ雨　相一
時ゝ雨ゝ晴　流勞
帝ゝ眼の射て思ふや水澤　梅曦
月明通雪ゝ降ゝ　崔嗅
雲の皆乃時ゝ雨ゝ　雲石

尾張

湖水ゝ鏡ゝ月の瀬川　西后
横時ゝ時雨ゝ　島津

大年や信のゝ人ゝ　勝居
雲ふも裏口先のゝ拍子　一清
祈ゝ程や聖ゝ雨ゝ　醉雨
日時ゝ雨ゝ玉雲の下ゝ　桃島
茶爐のゝ雨ゝ　月底
桜ゝ雨ゝ　應知
雁ひ人ゝ　黄山

三河

山桜しやをぬやうに開古寺　卓池
八重ひ弱ひたるやうや爾先　水竹
名ゝの所ゝ移ゝ色て了夜れ　完伍

遠江

青柳やふる尾上の宮ゐし　且松
宮殿ゝと名て覺ゑ岩橋　貞山

駿河

雪のあるて夜と等ゝ板ゝ屯　蘇ゝ

雪ちうゝかるやゝ色ゝ行ふ山路　有璃
ゝ青ゝ踊ゝ出て現ゝ利　癒雀
流ゝさや如平ゝ山ゝと弁乃新　月栖
森ゝ度ゝ等ゝ松文ゝ賜月城　漣山
知うゝめゝ乃ゝ北ゝ文ゝ接ゝ月　碧山

甲斐

人麻ゝ呂の名ゝ青ゝ嶽ゝ雲ゝ　雲里
月明ゝ長ゝ八ゝ乃ゝ今ゝ　可轉

嶋ゝを庭ゝに植ゝ松ゝ全　敏哉
ひとゝの手をあまたゝび搆　蒐雪

伊豆

青かとハ枝ゝ張ゝ藤搆　彩窓
ゆゝも地を踏ゝたゝかや星ゝ宵　茉莉

相模

箱書等拾貳ゝ付もかうゝ程　如ゝ
ちゝ雪や出ゝゝ初ゝ富一ゝ　立字

春のきゝとゝふゝもあゝゝ立ゝ日　蘆水
野ゝゝも源やゝと急ゝ流ゝ　宣頂
霞ゝゝ晴ゝ程ゝ二ゝゝ春　麦芽
苔やゝの方ゝ手ゝ柳ゝれ　一猪
もゝめゝゝ地ゝゝゝゝ磐ゝ　花水
雪ゝあや雲のゝゝ杉書夏　鈴雪
やゝ源ゝ屋の方ゝや拾尾茶　雨青
ゝゝのゝゝと麦ゝ人ゝ梅の花　援星

庫の奉行を曾乃春の上を　蘭砂
自ら自ら見る所見せし色　呉丁
面白き男とうとう　杜若　櫨屋
ちらつく迄ぬくもりを今と逢来　薫盛

武義

町年や坂者の中也界の月　月雄
法師者や見ぬ張て居る同色　桃郷
四つ迄風の吹稲角　雪貢

美しき彩も原の義乃如き刈　一栽
貴き所徳も二点立行く糸　千瑞
車子し塚ぬ時を義を　五渡
おしても春のつられぬ桂可角　角〻
ちの〻年秋乃雲を如き〻　寄之
所面打ち雨の降夜多　杉暁
まり雲をおし小松を旭風　梧青
子の為おなしく傷〻　和稔　竹山

蘭を洗ひ八千年も未の子の角　泳佳
水くさく苔むす根本一代　菁莪
枇杷の古曜くても高き蕾の郷　知一
実を思ふのいとなつる故蝶すかる　雨柳
ひと隅ハまよ殘しを朝の懸　松可
月ちさく実を殘を峠子の芳　芳嶋
寒空ハまるも祈うるふ婦　浪吉
恨もし霜や何ぞや寒の戦　松什

東都

山桜と雪ハ雨とも分ちかね　龍風
移衾の夢をもとめ海と川　如息
小布施ゆ庵空や橋の郷　四山
木ら雪上昇乃鐘の声ゆ　春崖
道豊ゆ紙すゝ枕ゆ　鳳朗
色ゆ紙ハ恒ともつる桜の角　風外
浮ゆ雲峰や移京の松ハ淋し　雁嶺

雪日もあり花よ雪和歌の風　由誓
巣よりも雪も霜も雪日和　一夏
松ふくや新松よりも雪　崔翁
連中吉弦のうり四畳自系　逗流
手ふくや新年八條日郭ヶ　篤山
見ふくや風を松ふくや和歌　紀黄
一ツ立ちやう立切を始ての歌　閑二
吉弦も雪ふくや老ふかし　永久

昭和ふくや松ふくや和歌　惟孝
紫雲ひらく新年ふくや雪ふくや　紫遊
雪のうち八幡ふくや一般老子　遊洞
二ふくや俳句ふくや新年ふくや　乙雄
新年ふくや新年ふくや友の時　半湖
時雨ふくや雪ふくや雪ふくや　伯遠
新年ふくや雪ふくや雪の月の時雨　丁知
伊川ふくや新年の新ふくや雪の雪　美里

百和
又〻
成竜
二和
流芝
雪我
念〻
赤明

槐見
鳥吟
山外
台〻
白二
金合
極益
見外

海辺や寒き秋なる雁の声　杜有
田の畦や雲かゝる秋　魯心
鶏うるや大鉢を売る家　五橋
時雨せし一瓶の二日月　鄙雀
霰の笠ゆ雪ふる帯　枯尾花　朱山
雪ふるのさしてもはやし雁の声　祖郷
もや起も程のなきもや扇をく　等古
秋立て一京を経ぬ二日城　柳兼

稲雀よ何憎らん人を畑の中　一裕
子稲の穂やもゝ赤ふる　小柯
七夕や白髪しくも漕小舟　雄弦
降ハもゝ白ハ流れ秋ハ雲　樹年
咲つゝ色の変るや枝垂花　湖山
黄雀人を結ぶ声ふる　茶鄙
小一里も行ふ雲ゆ空ふる秋　良台
うゝも猫ふるゝ雨ふる　天馬

[illegible] 凌雲
[illegible] 登史
[illegible] 繁茂
[illegible] 雲外
[illegible] 史来
[illegible] 板巣
[illegible] 宝之
[illegible] 卓郎

[illegible] 謝堂
[illegible] 橋水
[illegible] 野堂
[illegible] 千齊
[illegible] 秀直
[illegible] 月堂
[illegible] 宝秋
[illegible] 和寿

枝葉も太さまさる世まで新たなる　鎌倉
年経て幸くさかえる儀の上　玉ぬ
看きしかたはいまこそ番数の前　機分交香一
手の中を拭ひ戸棚のうしろ　月窓
川底や魂もたふさぎ古屋　護岳
秋空はて身もたゆたふ秋の　機分
水鳥や沈ふ行く眼の消さまの　泉分
景やうれ形の形すやうこのめ　井巨

網涼人　弘素　涼人　涼人
一輪をひと役を備す牡丹の前　渚邑
帷子や加賀の杉屋ぬ者て行　琴渡
陣乃陣てさ行く元新の立　銀盛
家ふこうをて水を鶏豆の者　杉居
世代乃親んて行　や竈神　金美
谷間の雪屋を包むひつ家ふう　駿臺
植さるい涼一　鎌と　石猿
　　要五

笠を脱ぎ雨を吉方に　陶房　春化

立草や為ひと筋の砂川原　呂川

安房

富二郎殿も留まる春雨　童呂

十月の恒根を切る小弓原　童乙

上総

何事ぞ鳥も人も杉の秋　音人

ふ限と思ふ程なる桂可南　呼牛

藤の花や丈伸て咲ける夏　雪羽

打ぬ雨を雲の利く小鮎哉　羽人

寒さ人も若ふの涼乃夕ぐれ　天堂

ちる雨や鎌倉を祝く雲　一島

敷蒲ふも花を寄せる野蓬　宇十

雲の手を引く偶ふ牧場哉　三州

下総

かくまでの様と留ぬや山吉雪　大竹　春吉如

俳の長倒を長平等
如柳
秋の能や法ゐくぬ[illegible]
妙典 蕉月
居並てゐるやうな梅一田を
風枝
冥土ゐる物を[illegible]
不ハシ 帰空
海原や泳て居を八眼のうを
第四 仁里
拒おしゐ寒や儒の点明堂
雅麦
明る春乃水と細いて蓮の花
文彦
年ゐと寒も秋も[illegible]八寸明月
多古 之桂

遠ゆるるゐ[illegible]離る角
三思
[illegible]何の動きを秋て[illegible]帰
有恒
巣ゐ対て[illegible]のゐ[illegible]高ゐ
中村 呂雄
地境の争ひも高一蕉の老
巴水
能の種云ひ乃ゐ[illegible]物丹角
撐年
何風ゐ業ても面の五角ゐ郎
和什
表源一[illegible]ゐ[illegible]の実
光撐
海原一種ゐ[illegible]俳苗
芝丈

玉台や石を拭まく雖仍ひ　和仏
寒さ未も中を寒て相ふ也　塘雪
烟へ公て駿河く移ふ麦の秋　東窓
つふたりと咲ふる者一の菊と高　花月
海乃赤い赤を行ふて月ふる家　真菊
一本て庭中を掃く楓ふ朝　既同
雨ふや寒と咲ふも二ふ　砂明
石蕗さや芋も　合まあ魚仏　和交

菊舟の新やひふて紅の先　扇素
京ふ色もや清ふ乃庭芋　百雅
赤黒の庶ふ手屋ふ　心蔵
万年乃紅葉ふ赤の寒今　琴声
菊の者ふ写を蕭ふ家　東明
新酒ふ門ふ地や夕明源　声来
おふ柿の葉ふ種や煙ふ井戸　安山
赤の白綱ふ赤て明ふ剥　声車

折の塚もうらやましきの猫　共之
ゆさぶの雨蛙ちる柳の軍　耕氏
かたるもやまぶき枯れるる　次翁
ものうしとて日の照るや割れ　月舟
ものの見る色をかしの立ち　可遊
窓うあるる唄を待る手鞠　金ハラ　一牽
郭公地よりや和尚拉ぐ　声考
茶さうきうを月の文やを和　孤人　空石

雨の日や紡縄切て掛ちる、一牽
鍋ぬるを折ふる男の嫁、　兎什
青柳の遠ゐ潮やう日月　サヨト　胡蝶
春ちる雨く科のるの形ぶ　島　路交
まれ見てよりて湯ゐて降の后　朱クラ　帰童
風吉の鳥と鳴やまき鉄ぶ　慎亀
山さうの雨ゐ雨ちる茶又亀　篤甫
芳の茶の拍やもかうさられ　シヤ　車皐

古稀を懸つぬ程や庵の雪　カフ里　玉秀

加之を雪と降るめ秋の雪かな　タカ　秀葉

植上て濃き門田の稲　挿スカ　一驍

所の神に祈あくを雪の雪　青晴

湖一面を掛て青簾　八百六　竹翁

雪は焼畑のまやの夕霧　丁丁

雪起る山の桜の郭公　梅里

手を入め打ちゝ雪の屋　亞柳

れゝ雪の古寺に星の打ゝ　ツハキ　芦雄

初紅葉を見るも湖の秋の雪　湖松

惜ゝ雪の降ゝ毛石の雪　司直

小春日を春の如して梅の猫　花里

五月雨や杉を生ゝ雨の柳　芦角

二度月ゝ雪ひ通る牡丹の雪　ハルヒ　一豪

明る宵や人を第て雪ゝ雪　良尾

行春や雪の雪つく庭雪　五陵

和秋の音や杉の別路　南畝

紅葉ちる〳〵と如雪　ヒラキ　梨園

音角と霧さくんと赤の山　吉澄

雲ちる露ちるとて八澄を意　春碩

ちる〳〵雁ちる〳〵雪の影　長江

乃月湖ちる〳〵や乃月　川雅

如雪ちる〳〵雲ちる〳〵雪紅葉　井トノ　蔵道

山ちる〳〵や里の竹ちる〳〵の影　ニ本や　耕専

露通

杜若

樹ちる〳〵の影ちる〳〵時雨山路　二幸

月秋の稲よ鶴ちる鏡　秋月

涼〳〵さや一の雲〳〵ちる波　百花

栗花のちる〳〵ふて桃ちる　ハケシヤ　所成

且ちる〳〵鶴乃巣の茶橋　一素

荷紅〳〵と舟の幟ちる時雨　飯ツカ　樵珠

ちる〳〵ちるを八雲ちる橋　栄甫

自雷うちなびく木の下陰に　小タカ　棣花
春つ鳥の鳴くや春の庭　一昇
梅さく軒に二月の晴れ　石綾
日の影に梢しめやかに　小川　李廣
鶯鳴て春さの増る山路哉　雪渓
人春の枯野をひくに日暮ぬ　桃川
春とうる梅の花の笠の雪　カフラキ　義峰
うち屋に禅を懸の鍋をうる　川口　狭栗

蕉の葉の葉に風の音　万サイ　蕉水
竹の葉の葉の雪の曲　法園
まつ松魚乙に吉野の嶺　汶汀
赤手や泥りまつ秋の出る　細戸　晴月
ちよちよと海を御ふる清水哉　山雪
山猫の毛も深き白に我　太田　篤角
剛らさに数ふ多一夏の跡　琴田　有人
一所にすむや田植の仕舞際　ミツハラ　玉淵

[illegible]の際のきしきを[illegible]
秋の[illegible]や出て行人を呼日和　坂　西隠
[illegible]や老たる人の家　新里　士祥
[illegible]のきる柳ふるさと見せる意　茶迎　歌月
むしの声や止ても雨の残る小家　ミタカ　素鶴
[illegible]のきる[illegible]ハ[illegible]の雨　十三石
庵の[illegible]おろさぬ月や[illegible]　府子　白翁
掃うけて[illegible]を待る戸口哉　素堂

[illegible]の[illegible]方[illegible]の[illegible]小松原　貞一
[illegible]色の[illegible]の夜乃月　瀧義
[illegible]や小島の[illegible]を覚[illegible]　拙成
[illegible]の[illegible]の[illegible]の月　ウハキ　壽壮
[illegible]の[illegible]　西山
[illegible]の[illegible]の[illegible]　南吟
[illegible]作る[illegible]むや[illegible]小屋　白明
[illegible]の[illegible]　里中

きゝ蝉や奈の奇ハ素飛蝉の声　白羽
茶峠やとの戸明るも山を猶　秋月
名月や出つるもの庵の明る　文涼
山蟲の形と秋し小池の角　山暁
無物を学峠を通る今宵　小ゝ川　秀麿
面白乃秋と来しけり　文翼
義入を惜きと面の降ふ　左ハラ　江月
ゝ泊ゝあて分るきゝう絵　兎郷

田を向て離ゝるきゝや山を家　丹李
松の幸ゝ人も那ゝ閑古ゝ　菓后
名刹ゝ見神ハ月ゝ一時面　何彩
素の鮒眼ゝ面ゝ　小ゝ川　笙ゝ
峠ゝ面ゝ孫ハ女猫ゝ　牧ノ　家猫
朝ゝ山ゝ無ゝ　岩ア　茅丸
那ゝ蒙ゝ蛍ゝ白和尚　烏有
郭の毛や蝉ゝ雨乃明ゝ　宮雲

明易さやうもうそ朝雪　沢　吉雄

朝の日と朝起を枕の方とも分す　文史

魚と折のさを勤うす池の鴨　茂等

遠山や日中もうしや雪の色　郡　茂桂

増の春と秋も尽さう汐干狩　蓼節

水ともさをのうそ絵に貴き長　ツラ　文馬

岸や晴さうもうそ春くさう　ナキ　勝谺

新月の香うもさう松の風　タカ　蔦良

然に秋乃ありし絵の時雨　次ウラ　南斗

若草や新うし鳴ふて鶯うし　平ス　晋我

般屋の雪もちう春の鶯　呂叟

梅柳春の月新そうん初うし秋　古人　重定坊　敏何

枯芦と柳と山の色春雪、　貞翁

己の春を梅さと新行う雲雀の方　内山　江州七文　兎這

[illegible]

西湖連句

[illegible]　新し

[illegible]　雪汁

[illegible]　峨量

[illegible]　其風

[illegible]　晩雲

[illegible]　竹峨

[illegible]　仙芝

[illegible]

[illegible]　若居

[illegible]　梅尤

[illegible]　登汐

[illegible]　可門

[illegible]　[illegible]

[illegible]　已年

[illegible]　徐明

[illegible]　梅嶺

霞うゐのうらさき 振舞小松の新　行秋男　山南

おとがう梦をむすぶ見の所　行秋

ちらつく雪もむすび上げ　雪汁

行くたもとも新う吹　花をさそふ俤て　新く

児のうらさきを荷ふ柳　陸　兎什

苔頃い出来て大工の寒う月　汁

家のハをこうう俤く振舞　秋

彩画ハ光見お疾もいるあ　什

市をふる事　恵　郎うふ　彩

仕舞ふを思ふ小柄の新も　秋

明うあつまの夜川ふ行く　汁

男家乃門藤と人日おめる　彩

俤もくも夫園ふもも　什

をよ秋い月ふもをいるく近　汁

[illegible]　砂
[illegible]　什
注文通り　揚ル職人　彩
[illegible]　砂
下の[illegible]　斗
[illegible]日の[illegible]一日[illegible]　彩
[illegible]　什
[illegible]　斗

[illegible]　砂
[illegible]　什
[illegible]　彩
[illegible]　砂
[illegible]　斗
[illegible]　砂
[illegible]　彩
[illegible]　什
[illegible]　斗

踏ちらす鬼の眉書てやる　柳

福寿草乃似もとうとう春　什

神酒を加へて清もさうさう　野

旅日記も見のうちハ丁峰と　柳

蝶さそふ枝と枝と降ぬ雪　汁

花の寄乃残るうつすに西ひう　野

折ふし思ひ種を蒔居　什

名九句

常陸

烟ぬけて所ハ昔の屋敷の空　松軒

人家ハ西ハ海ハ烟乃霧　一泡

冬の春ハ嫁ハ立居ハ　聖巣

雪ハ雨市ハ氣ハ橋ハ角　湖井

直の出て義経ハ嘆ハ　二峰

ウハ草やハ人ハものやもの思ハ　滄水

近江

さ秋ふて四へも稲毒子　楓下

名残とて出て踏ちらす初時雨　野湖

落葉踏て寒さ忘れる冬ごもり　玉指

咲さ残りつるを惜ふ冬の傍子　虚谷

七厩のちるを惜ふや中俳　隣山

信濃

咲さを来を待て桜市　圭市

洗ふも人をうみぬ秋の彩　菊古

長い眼を生のむやや梅白の老唐　東處

雁ハをぬ雲を吹ふや花乃伝　敬角

泡ちあて魚の浮ふや春の川　中節

鶯の舞高ひけて垂ふ子　白菊

思梅ふ庄ひや春の袖を吹ふ　湘玉

恋ぬけて二言舞ふ庵の猫　若人

上野

朝ふ寒ふく来ふ丘五梅　木公

ちらちらと居る一ぱいもやもやの朧
猫恋ふ恋ふるもの哀れ海の郷　風石
海汐や赤とやまとくと鮫の骨　竹煙
浪ばりの神無月や鄙ぶり　一弓
ぶつぶつ小豆を揚てゐる牡丹の花　松蔭

六月

同じ年を紅梅の柳の角　得所
元日の赤飯を喜ぶ昭日の角　嵐角

浄瑠璃の柳市原くるめきて　甚翼
朝の窓紙を撫る木の葉哉　塵外

陸奥

学や陸のさふけも何ぬ春　たちぬ
苗代や赤くまさる雨の柳　江之
竹を立て稲を立てる牡丹哉　舎用
雲雀の人を弘長ふ穂の分　心阿
大の朝の春を市の高　一止

新しき月かあらうの菊うれ　之朝

住ふうー庵あよ秋日の雨　永日め

日のさめ空さきふ清水ふ　芳河

小あるす補ひうのやや杜鵑　杜芳一甫

出羽

乃月よ山乳のよきめ切竜乳　涼蕉

月夜くさる板もしめてうえの苔　稲物

戸よ傳ふ時ちれと庭をう雨　宇孫世

都よ空をかうれて蕉よ寒ふ　玄子

沼の野ま家も時や加ふつも雨　太橋

越前

ひそうと笠柳と母家寄ふ　古眼

居の月も鳴くも雨よ集よふ　瓢石

加賀

庭の手也分ぬ蕎ハちー家ふ集　紙平

星ふ梅雪をちんと寒ふ全　柳壺

能登

柳堤

新しめきる日さを所のわうさを新

呂國

仮寝やゆめ雑伝る様伝何

湛海

さ伝よひしくしちや扇う者

越中

子適

やのて解笠の儀や却の寄

東升

濃中さ牧さ紅葉見牧て

越后

乙良

きの所やうさを扇の新ちる

素宝

きの牧の義度も書牧を

西晴

ゆちるの種ちる桜の花

吏川

二度さ集さ都や帰雁

吟糸

撫牧る新所ちる形を

岩村

本つるやちの本魚と和物

寄泉

鶯ちる撫寝さ春情ちる糸

北洋

ちる糸や母言さ孫の上

木からしや鷹もまちかねし森の奥　蘇山

佐渡

后の月はなさ艶生の思ひ哉　良該

比さひらて小舟も出ん枇杷の花　文仙

うそうそも旅な萩に秋の暮　喬松

門松や誰も露かく舎の外　文明

丹波

海の明百年ぬ冬をこの郭　濤瀧

山雉や添ましまもれす岩一本　九華

涼の車渡る路まけらし頃

木からしくまして緑ん加らぬき頃　月樵

丹後

葉の露こそめ孔に野風の秋　馬良

松ひらく木末に枝至て蟬の声　雨新

但馬

鶯乃鍋積しく小ゆの年　無着

桂市屋と遊ぶ仕舞ふ日可雑　寸風

秋の水芳乃舞ふ下流をなす　佛光

出雲

折折て人を移す張り弟　百年

降中也ふ春の雨の雫　河岳

石見

ふ庭ふ掃ふや大根の俵ぬ　蓍盛

周防

青池

播磨

青屋也ふ掃ふ清水を秀

門ふ折ふふ脊ふの寒ふ弟　可大

摩丘の松ふ信や雪乃花　耕雲

松ふ降ふ鶯ふ小ふふ春の月　牙鵬

蓍屋のふ行もほふもを末の寒立　芦國

美作

九寒ふ寒ふ日のふ小春ふ春　徐来

朝うちやゝ出る日の影の張　布國
山吹やさゝ波ぬはく岩ゝ書　北斗
立うちむ木ゝの影清水の奈　源呼

備前

手際よく切さん寺西瓦哉　香雨
峠坊ら春雨寺ゝ程杜宇　史也

備中

安藝

咲さまと打やうもさめ柳の角　霞塚
流さま変ゝ屋ゝ桂木市　和切
義入れ芳蘭うゝて棒ゝ奈　雪頂

周防

市ゝも先一ゝて山さの良　風河

長門

植うゝ手のゆゝまゝ福寿草　岑丸
撫のけて衣ゝ長振ゝ弧　千船

紀伊

このしたや道まもりけんの手　閑野

其の花を咲るも花ちるも　岩岳

淡路

あはぢしまなみ打こゆる踊可申　蒔池

流れ来のうたて眼の行衛哉　吐雪

山水を吉野ひたすら月　半谷

阿波

鄙さかりや行こしの軍扇の時　露泉

果もはてぬ波の底くや峰千在　鳳樹

ちり残や蝶もかくれぬ行方　素蓼

相の浦ゆうけて出る月　等偉

赤ちり咲蘆はたゝ重なる　大峯

讃岐

風箱に梅ちる家ちらす　羅洞

移りすや我ち立ちる雁ちる　袁推

伊豫

結の紐もとく人ぞ清水哉　常磐

交てふたつの宮柏葉　映門

日の影　結ぶ紐乃葉もなびく　紫人

立舞や神楽を奏る宮ぬし　菱益

結ぶ中ゝ色ゝの花　卯角

土佐

結ぶ月ぞ元と知るゝ春ぞ　笠唯

庭掃のしるしの松葉ゝ　嵐夕

葉やをとめ乙女の眺め色　掃牛

紅葉の明ぬ笠乃ゝ色　尤史

豊後

法貴やゝ色めと思ふ屋根乃色　末父

和子やゝ色ゝ神社の色ゝ　可雅

てのこをさしかたやうやうの秋　路方

秋風や鶴の脚もまがるべし　菊人

筑前

日ぐもりの雨やうやうの月の雲　雨堂

田乃鶴の鶴ぐもりの朦月哉　宇甲

蛙つくと鶴ぐも帆上て大根引　宇逸

一株の鶴ぐもの紅葉哉　和堂

豊後

京合の器ぐもりの山路哉　麥五

鶴媚乃ぐもりて行や筆の姿　素堂

ぐもり鶴の出羽を巻く牛く　山公

八月の鶴ぐもや葉ぐもり一うめり　和成

肥前

芙蓉や老てのこの影を流の傍　怨〻

鶴ぐもりてくもりや赤桔　路牧

宮の社を拜しうたひ初め

眉山

押めたる行末あ[illegible]の雪ふる　孤鶴

ふる橋小橋ふるさとの　ムサキ 駝鳥

接待の縁に長ふる稿ちるも　徒雲

世よ長くうつも長ふや神の雪　南田

業平の校うたるふ素ぶ　負土

分ふも家ふ藤つく巨猫ふる　立島 東垣

肥后

永ふ日もたのふふ[illegible]ふふの愛　仙翁

ふ時や紅ふ和歌ふ紅初　青年

日向

一番やう跡ふ藤ふ和ふ孔　駝岳

多ふも嘶ふ[illegible]ふ雀ふ船　双鳥

薩摩

多賀の万ふ亦軍や川向　應門

新ふ人ふも乙ふふ毒ひ世ふふ　素秋

夏草や石ふまくやの山の月　馬堀

高野とおもふ雲や霧の業　蓼文　　春坡

樹の葉の姿をとどめや水の泡　樹海　　對馬

山路や宗鑑にて向ふ直段　兎什

折〻鶴乃ふるさとの節　山南

饅の頭菓子屋箱を

注文ちらばもちさい兎　南　　什

元町の市も西ちら沿　什

曲家〻ち殘る菓　抗　南

子ら素〻ちら喰も影ら沒　什

無て傾ハ素乃下　南

[illegible]　付
もゝの花乃ちるもまれい物る　南
傾きし月よ油をさして直　付
たゝさ月ふ草の夫ロ　南
知ふ春もうゝ世て萩花　付
醫者の迄ひもむと言ま　南
山林乃紅葉と咲ふ花も見　付
風ちし白乃ちるゝと海　南

新しき器の芋を色をゝ
白きの世乃世ても深き藤　付
　　南

右一折

家ひとり引うけてたゝ柳の影　呂叟
拾ふ七夕こ日和婦ゝ　汀砂
書ちゝ屋ゝ橋の連撰て　叟
鍵乃有仏異ひ山ゝ　砂

八重垣を掘て生ずる昇り月　雙

碪を槌の新しき音　砂

さつさと年貢納めもして任せ　雙

海つばめ紅房ふる根岸の沖　砂

美しう蓄の蕪ふうとまる面　雙

萩の下姉妹野辺の行　砂

下ゆき走る雷の跡も新　雙

郭上ゆきもふと出て仏　砂

千俣の月とちらめく漁河所　雙

寄くだりて援菜買さる　砂

子稚らも紫の撫ふ焼稲の粒　雙

生も生れも係房く　砂

刈ゆきと皆の蕪ある藁を荒　雙

卿の和歌乃先男と書　砂

右一折

[illegible]や初霜見えそふ嘶
[illegible]て婚[illegible]書[illegible]曙魂
[illegible]めさ[illegible]も[illegible]や大月[illegible]
[illegible]や[illegible]先へ[illegible]梅

集者　汀砂

弘化二年　己巳弥生上梓

文雀園主人宝

追加

月の届くまの[illegible]月の[illegible]の[illegible]　下ヶ[illegible]　柳谷
川[illegible]　[illegible]　朝の[illegible]　静加
[illegible]の月[illegible]　雲頭
城[illegible]　[illegible]　[illegible]　ふり　本麿
[illegible]　[illegible]　[illegible]日和[illegible]　多古　成裕
[illegible]　[illegible]　巣[illegible]　米櫻
[illegible]　[illegible]　土衡

ふけかすみ　京師　ヒシタ　何秀

住よきは四季の家よ地主よりの　魯風

押うみの客と巨艇をとり結ぶ　武平井　玄也

海を切る舵を銷うの船　カフラキ　素超

夕橋さくや志ぐ堅玉　墨芳

水うみの高日遠や秋半　桂月